

【資料3】



浸水防除の取組の紹介

令和8年8月26日(水)
上下水道部経営財務課
維持管理課



7月12日、旭川市で局地的な大雨



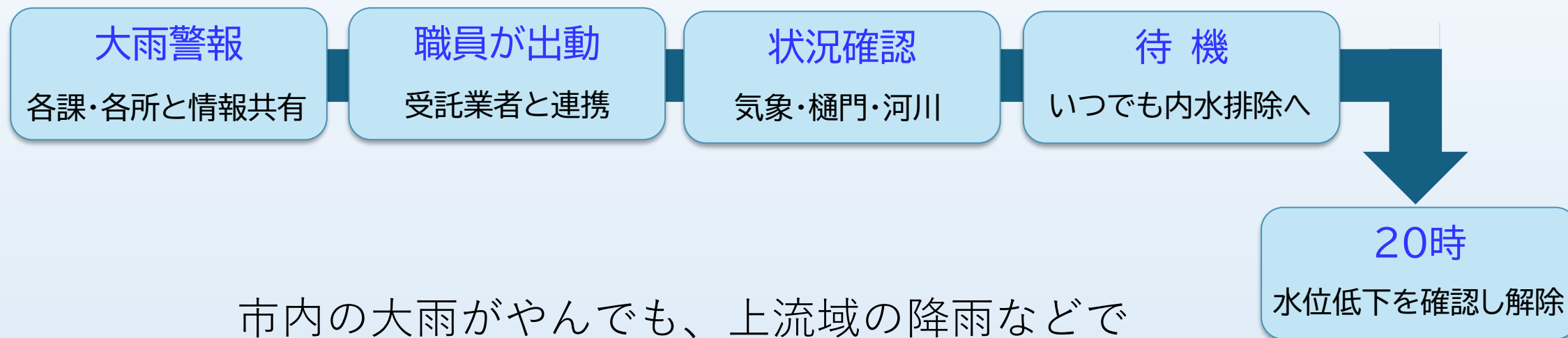
大雨警報（レベル3）

短時間の局地的な大雨
ひょうを伴う時間帯も…

河川・樋門もこのような状況に



このとき、水道局では...

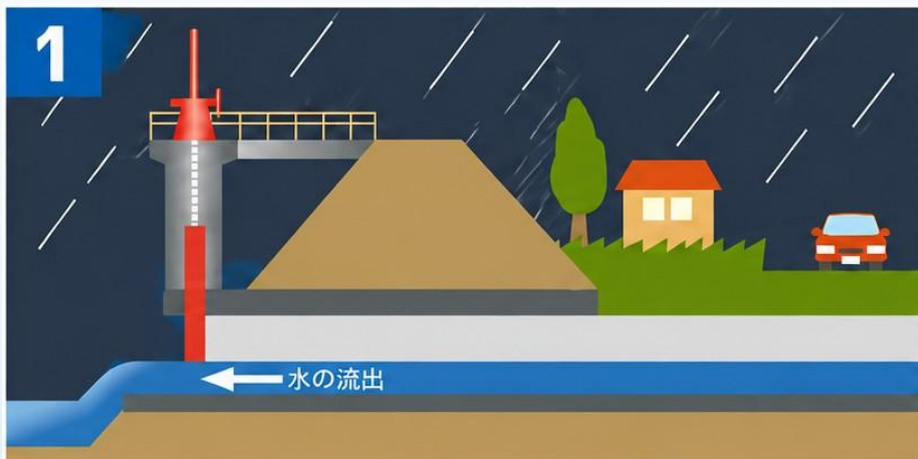


市内の大雨がやんでも、上流域の降雨などで河川水位が上がる可能性があります。

水位が確実に下がり続けていることを確認するまで対応が続きます。



もし、河川の水位が更に上がったたら...



通常、街に降った雨は雨水管を通して、そのまま川へと流れていきます。これは雨水管より河川の水位のほうが低いためです。



雨が降り続けて、河川の水位が上がってくると、川の水が雨水管に逆流してしまうため、樋門を閉めて、街への逆流を防ぎます。



しかし、樋門を閉鎖すると、街に降った雨も川に流すことができなくなり、このままでは街に水が溢れることになります。これを防ぐために、水道局では仮設ポンプで街に溜まった水を吸い上げて、ホースで河川に排水します。これを「内水排除」といいます。



実際の「内水排除」



必要になれば、ピットに設置したポンプで、街にたまる雨水を河川に排水します。



「何も起きない」ために



7月12日は、幸い内水排除を行う状況には至りませんでした。

この場合の成果とは、
「何事もなかったこと」
ではないでしょうか。

皆さまの安心・安全や成果として何をお伝えしていくべきか、その一つの例として感じ取っていただければと思います。